

もくぞうやくしによらいざぞう  
木造薬師如来座像

市指定有形文化財（彫刻）

梨郷地区中巻にある建高寺境内の薬師堂の本尊仏は、像高 44cm、台座 33cm、木造で金漆箔<sup>うるしはく</sup>を施した座像です。鎌倉期の作風を残した室町時代の作とされています。

薬師如来像は、左手に薬壺<sup>やっこ</sup>、右手には施無畏印<sup>せむいゐん</sup>（右手の 5 本指をそろえて伸ばし、手のひらを前に向けて、肩の辺りに上げる）が多いのですが、この「木造薬師如来座像」の右手印相<sup>いんぞう</sup>（仏が手指で示す印の形）は阿弥陀如来の下品中<sup>げぼんちゆうしょう</sup>生<sup>げぼんげしょう</sup>または下品下生印に似たもので、珍しいものです。

薬師堂は、安政 5（1858）年の再建ですが、建立記録によると、南陽はもとより小国・長井・川西・高島方面からも寄付が寄せられたと言われており、置賜一円から信仰されていた仏様であったことが分かります。

多くの温泉場には守り神として薬師如来が祭られています。この仏様も温泉の守り神だったと言われており、昔この場所に温泉があったのでしょう。

しかし、享保 11（1726）年に建高寺に火災があり、薬師如来が右手小指を負傷しました。薬師如来は、この右手小指で水と湯を分けていたと言われており、以後、梨郷の温泉は温泉でなくなったと伝えられています。



また、建高寺にはもう一つ宝物があります。それは、天皇のお言葉が書かれた<sup>ごりんじ</sup>「御綸旨」です。さらに、建高寺には綸旨を入れた箱もあります。黒漆塗の書状箱で、菊の御紋章の下に「御綸旨」の金文字、紫の紐が掛けられています。昔は、箱の中を見ると目がつぶれると言われていました。箱の中には、曹洞宗の本山の一つ総持寺<sup>そうじじ</sup>の 1 日住職を命ずるといふ「薄墨の綸旨」が入っています。

南陽市文化財保護審議委員 須崎寛二  
平成 29 年 3 月 1 日号 市報なんよう掲載